

令和8（2026）年度 学校経営方針

小笠原村立小笠原中学校長 武内 亮

思いやりの心情を基盤に「自分の大切さと共に、他の人の大切さを認め、それが具体的な態度や行動に現れる」ようにする「人権尊重教育の視点」を大切にした教育活動の推進

学習指導要領に示された「将来に向けて育成すべき資質・能力の3つの柱」

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合的に捉えて構造化

【基礎的な知識・技能の確実な習得】
何を理解しているか 何ができるか

【課題解決を図るための思考力・判断力・表現力等の育成】
理解していること・できることをどう使うか

【学びに向かう力や人間性の育成】
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

東京都教育委員会 教育目標

- ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- ・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

小笠原村教育委員会 教育目標

- ・互いの人格を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ子供
- ・社会の一員として、社会に貢献しようとする子供
- ・自ら学び考え行動する、個性と想像力豊かな子供

小笠原中学校 教育目標

- ・よく学び、考え、行動する人
- ・やさしくたくましい人
- ・社会の一員として貢献できる人

目指す学校像

- ・秩序と潤いの中で生徒が生き活きと活動し、笑顔があふれる学校
- ・課題に迅速に対応し、積極的に教育活動の改善・充実を図る学校
- ・保護者や地域から信頼され、安心して生徒を通わせることができる学校

育てたい生徒像

- ・物事を多様な視点から考え、自信をもって自らの意見や主張を発表できる生徒
- ・人の気持ちや立場を深く考えながら、公正な判断に基づいて行動できる生徒
- ・礼儀を重んじ、進んで地域や社会のために役立てようとする生徒

教育活動の重点目標と方策

コミュニケーション能力の育成～多様な考えをふまえ、自分の意見を発信できる生徒を育てる～

確かな学力の向上

- ①国・都・村の学力調査の結果を分析し、「指導と評価の一体化」の視点に立った適切な学習活動や評価計画、授業改善推進プランへの反映等を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現「『わかる』から『できる』を実感する授業」の実施に向けた授業改善を行う。
- ②自主学習ノートの取組や放課後学習教室「おが中寺子屋」を開催することで、補充学習のための手段を提供する。また、不登校生徒の学習権の保障を含めた「個別最適な学び」推進のため、学習者用端末の活用を進めるなど、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。
- ③課題解決のための思考力・判断力・表現力等の育成により、未知の状況でも対応できる生徒の生きる力の育成を図る。

豊かな心の育成

- ①自己肯定感・自己有用感を高め、命を尊重する心を醸成し、自他ともにかげがえのない存在であることを自覚させるなど、心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進する。人間性を豊かにするとともに、現代の様々な人権課題に適切に対応し、具体的な態度や行動に現わせるよう、発表の機会を通じて他者に発信することの大切さを自覚させる。
- ②道徳的価値に基づいて自己の生き方について考え、自他の違いを認め尊重する思いやりの心情を基盤に、個々のコミュニケーション能力の育成をねらいとした道徳の校内研究により、「考え、議論する道徳」を実践する。
- ③課題探究型の「小笠原学習」に代表される様々な体験活動等を通じて、生命尊重の心や自尊感情を醸成する。

健やかな体の育成

- ①保健体育科の授業や部活動、社会体育を通して積極的に運動に親しみ、体力づくりに取り組む。また、体力テストの結果を分析し、課題の克服のために授業の工夫改善を行う。
- ②遠泳大会、小中高連合運動会、村のロードレース大会等に向けた本島独自の教育環境を活かし、運動の日常化を図り、自ら健やかな体づくりを進められるようにする。
- ③食育講話やお弁当の日の活動など、食や性・健康に関する正しい知識等を身に付けるとともに、生徒が必要な情報を自ら収集し、適切な意志決定や行動選択を行い、健全な生活を送るための資質・能力を育成する。
- ④災害に備えた日常の行動及び災害発生時の適切な行動ができるよう、多様な避難訓練の実施など防災教育の充実を図る。

信頼される学校づくり

- ①学校評価アンケート等を活用して、保護者の願いや思いを学校に反映させていくとともに、「地域懇談会」を開催し、広く地域・保護者との情報共有や協議会などを行うことで、「社会に開かれた学校」の実現をめざす。
- ②教室環境のユニバーサルデザイン化を図り、生徒の安全が担保された学校環境を作る。また、適切な合理的配慮や支援の在り方などの相談支援的な教育活動の充実について、校内支援委員会の機能のもと研修を図る。
- ③「統合型校務支援システム」を活用し保護者連絡の配信を行う。ホームページを積極的に更新し、日々の学校生活について発信する。
- ④小中一貫教育の充実を目指し、小学校の各教科のまとまり等において、中学校教員の専門性を活かしたティーム・ティーチングを実施する。